最優秀賞

「台風19号の爪痕」（4枚組み）
佐藤　浩之さん
福島県須賀川市

銀賞

「担い手誕生」
吉田　浩子さん
福島県いわき市

銀賞

「スミ付けて幸せ一杯」（4枚組み）
秋篠　重仁さん
岩手県盛岡市

第44回「新・日本の農村」写真コンテスト 入選者

賞	氏　名	県　名	画　題
最優秀賞	佐藤　浩之	福島県	台風19号の爪痕（４枚組み）
金賞	後田　　渉	長崎県	腰を屈めて
銀賞	秋篠　重仁	岩手県	スミ付けて幸せ一杯（４枚組み）
銀賞	吉田　浩子	福島県	担い手誕生
銅賞	千葉　守保	岩手県	豊作に願いを込めて
銅賞	村上　優子	岩手県	冬のさんぽ
銅賞	佐藤　義敏	秋田県	生きものふれあい（３枚組み）
銅賞	山﨑　泰	栃木県	終わりなき戦い（５枚組み）
佳作	小坂　文夫	北海道	「春の嵐」
佳作	長友　逸郎	北海道	晩夏
佳作	石田　めぐみ	北海道	小さな即戦力
佳作	五十嵐　敏紀	秋田県	冬の休耕期（５枚組み）
佳作	相楽　執一	福島県	真冬の収穫
佳作	関矢　俊夫	群馬県	高原の収穫
佳作	村田　則一	埼玉県	冬枯れの里
佳作	冨田　学	埼玉県	ＬＥＤ光で育つ
佳作	深沢　有基	長野県	小春日和
佳作	松浦　嘉人	静岡県	干柿づくり
佳作	伊藤　孝司	三重県	刈り取り
佳作	白木　勇治	京都府	泥美人誕生
佳作	山崎　秀司	兵庫県	春の中垣内棚田
佳作	海地　謙一	鳥取県	早朝散布
佳作	小片　正一	香川県	水辺のデート
佳作	杉浦　正幸	愛媛県	畑の準備
佳作	末光　則夫	愛媛県	夕暮れの棚田
佳作	石川　賢一	高知県	山里の虫送り
佳作	森　博茂	佐賀県	休耕田でＴシャツアート
佳作	川﨑　信義	長崎県	お蔵入れが終わって

審査講評

尾辻　弥寿雄
日本写真家協会会員
日本リアリズム写真集団会員

総評

応募総数が最高だった昨年に近い応募があり、審査する者としてこんなうれしいことはありません。

今回は、多様化する農村に対応した新しいテーマや、テーマをより深く表現する組み写真に取り組んだ作品が多数応募されました。また、柱となる農民に焦点を当てた作品も玉石混合の感がありながらも力強い群として存在していました。一方、棚田や祭りなど従来農村写真の中心であった作品に勢いが感じられませんでした。マンネリを打破する工夫を望みたいものです。

特筆すべきは入賞作品8作品のうち半分が組み写真という結果でした。組み写真は複数の写真を使用しテーマや意図をより強く伝える方法です。複数の写真を使用するため、同じ意味合いの羅列やイメージが不統一という失敗をしやすいものですが、成功すると訴求力のある作品となります。組み写真での挑戦者たちが、年々組むということに習熟してきた証です。これでもっと重複を省くなど研究を重ねると、単写真での応募者たちには大きな脅威となるでしょう。単写真の応募者の一層の頑張りを期待したいものです。

惜しくも佳作にとどまった作品の中にもドローンを駆使した「早朝散布」や「LED光で育つ」など時代を敏感にとらえた作品がありました。この視点は「新・日本の農村」というこのコンテストのコンセプトに沿っています。次作を期待したいものです。

個別評

最優秀賞「台風19号の爪痕」4枚組み　佐藤浩之さん（福島県）

台風直後の撮影か、被害の爪痕が生々しく記録されています。ハウスの倒壊や農機具の残骸、稲の倒伏など精力的な撮影行動と、組み写真にすることで被害の規模を強く伝えています。撮影者の視点の深さと技量の確かさの証です。また、曇りの撮影は、自然の驚異は収まっていないことを暗示しているかのようです。

金賞「腰を屈めて」後田渉さん（長崎県）

横に大きく広がったハウスのなんと天井の低いことか。これでは作業は難渋するでしょう。体重が片足に移動した瞬間を写し止めたシャッターチャンスと、天井の低さをしっかりと意識したローアングルが光っています。作者の現場での発見と驚きがそのまま作品になっています。

銀賞「スミ付けて幸せ一杯」4枚組み　秋篠重仁さん（岩手県）

撮影が困難な夜の祭りを、ストロボと8分の1秒というスローシャッターの組み合わせで的確に写し止め成功しました。夜に強いデジタルカメラとともに作者が持つ高度な技術が発揮された結果です。特に1枚目の行列のカットは、真っ暗になりやすい背景の木立まで見せ情感を出しています。

銀賞「担い手誕生」吉田浩子さん（福島県）

何と素晴らしい成長記録なのでしょう、人生の出発点となる写真です。結婚式で流されるビデオの最初の一コマを飾るのは間違いありません。さらに野菜と一緒に写すことで自然の力に守られていることを表しています。自然と共にある農民の心までもが写っています。

銅賞「豊作に願いを込めて」千葉守保さん（岩手県）

昔ながらの手押しの除草機は重労働です。特に梅雨時は雨に濡れるしカッパの中は蒸すしで大変な仕事です。しかし、その一押し一押しに豊作の願いがこもっているのです。大変さを吹き飛ばすかのような素晴らしい笑顔です。人物と背景の田んぼとのバランスが最適でした。

第44回「新・日本の農村写真コンテスト」

明るく楽しい事象や災害など現代の農業・農村・農民の姿をテーマとする、農業共済新聞主催の第44回「新・日本の農村写真コンテスト」の審査会（審査委員長・尾辻弥寿雄氏＝日本写真家協会会員、日本リアリズム写真家集団会員）がこのほど開かれ、各賞の受賞作品が決定した。応募総数694点（応募者数227人）の中から、最優秀賞（賞金10万円と盾）には佐藤浩之さん（福島県）の「台風19号の爪痕」、金賞（賞金5万円と盾）には後田渉さん（長崎県）の「腰を屈（かが）めて」が選ばれた。銅賞までの上位入賞作品を紹介する。

金賞

「腰を屈めて」
後田 渉さん
長崎県諫早市

銅賞

「生きものふれあい」（3枚組み）
佐藤 義敏さん
秋田県秋田市

銅賞

「豊作に願いを込めて」
千葉 守保さん
岩手県金ケ崎町

銅賞

「終わりなき戦い」（5枚組み）
山﨑 泰さん
栃木県栃木市

銅賞

「冬のさんぽ」
村上 優子さん
岩手県奥州市

銅賞「冬のさんぽ」村上優子さん（岩手県）

雪国には珍しい晴れの日、人も猫も思い切り太陽を満喫したいのです。その気持ちが画面から伝わってきます。お母さんが猫を追いかけている瞬間のシャッターチャンスが生きています。猫の飼育は屋外に出さないのが最近の方法だとか。猫だって思い切り外を飛び跳ねたいのです。

銅賞「生きものふれあい」3枚組み 佐藤義敏さん（秋田県）

子どもたちの好奇心が画面からあふれ出しています。きっと、何だろう、なんでだろうと頭の中は?マークがあふれ出していることでしょう。その好奇心を、生き物の姿と子供の手で表現したのは素晴らしい発想です。写真に作者の好奇心も一緒に写り込んでいます。

銅賞「終わりなき戦い」5枚組み 山﨑泰さん（栃木県）

獣害は年々深刻さを増してきています。山村の農家ではあらゆる知恵を駆使した戦いをしています。その知恵の発露を映像化しようと試みて成功しています。マネキンも太い金棒もおりも深刻さの表れです。柵に群れるスズメに、自然と人間の関係の不思議さを物語っているようです。